

令和4年度ジャパンリンクセンター運営実績

令和5年3月31日
ジャパンリンクセンター運営委員会

1. 委員会、メンバーミーティングの実施

(1) ジャパンリンクセンター運営委員会

ジャパンリンクセンター運営委員会を合計4回開催した。また、その議事要旨をジャパンリンクセンターの web サイトで公表した。

(2) 「対話・共創の場」(メンバーミーティング)

令和4年12月15日に「対話・共創の場」をオンラインにて開催した。なお今回はメンバーミーティングと統合しての開催となった。

2. サービスの開発、運用および管理

(1) システム開発、改修等

次の開発、改修、調査等を行った。

① スキーマ定義ファイル (XSD ファイル) の作成

JaLC の DOI 登録における XML スキーマ定義ファイル(XSD ファイル)について、各コンテンツ区分及び各 RA 区分について作成した。令和5年度に一般公開予定。

② JaLC REST API における全データ一括提供サービスの開始

JaLC REST API サービスで取得可能な全データを一括で提供するサービスを令和4年10月より開始した。

③ 機能改善

DOI 登録および情報提供機能に係る機能改修を行い、令和5年1月25日にリリースした。

④ 研究データ大量登録実験

今後の DOI 登録数増大が見込まれる研究データについて、DOI の大量登録実証実験を令和4年8月より開始した。

(2) 運用

システム運用、ユーザサポート業務は、過年度に引き続き外部に委託して実施した。

3. DOI 登録機関業務

(1) DOI 登録業務

過年度に引き続き、正会員の入会対応および準会員への DOI prefix の払い出しを行った。その結果、会員数、DOI 登録件数は、表 1 のとおりとなった。

表 1. 会員数および DOI 登録累計件数の推移（令和 5 年 3 月末時点）

	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	R1 元年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
正会員数	25	29	37	43	49	57	62	73
準会員数	1,131	1,518	1,814	2,060	2,257	2,434	2,670	2,964
DOI 登録件数 (内訳)	3,189,377	3,457,584	5,330,029	8,155,335	8,529,611	8,790,850	9,358,545	10,486,703
・論文	2,937,916	3,193,160	4,941,494	6,701,165	7,028,298	7,240,670	7,505,799	7,934,514
・書籍、報告書	248,488	261,175	309,559	1,317,654	1,341,739	1,369,414	1,514,526	2,155,460
・研究データ	1,545	1,719	75,875	133,152	156,000	176,019	332,895	388,951
・e ラーニング	1,427	1,520	1,891	2,120	2,321	3,357	3,645	4,521
・汎用データ	1	10	1,210	1,244	1,253	1,390	1,680	3,257

- ・ 正会員数、準会員数とも堅調な伸びを示している。正会員は公的研究機関、学会、大学、民間出版社など多彩な機関で構成されており、また準会員は J-STAGE 参加学協会や大学機関リポジトリ等から構成されている。
- ・ 令和 3 年度に続き各会員によって着実に DOI 登録が進められた。主な登録例としては、国立国会図書館（書籍・報告書等約 60 万件）、NII 機関リポジトリ（論文・研究データ等約 18 万件）、J-STAGE 利用学協会（論文等約 18 万件）、国文学研究資料館（研究データ等約 2.2 万件）、医学中央雑誌刊行会（論文等約 1.7 万件）など。
- ・ 令和 5 年度よりコンソーシアムへ移行する DataCite への DOI 登録件数は累計 4,918 件となった。今年度の主な登録例は海洋研究開発機構(約 1.1 千件)等。
- ・ DOI 登録件数が 10 月末に 1,000 万件を突破した。

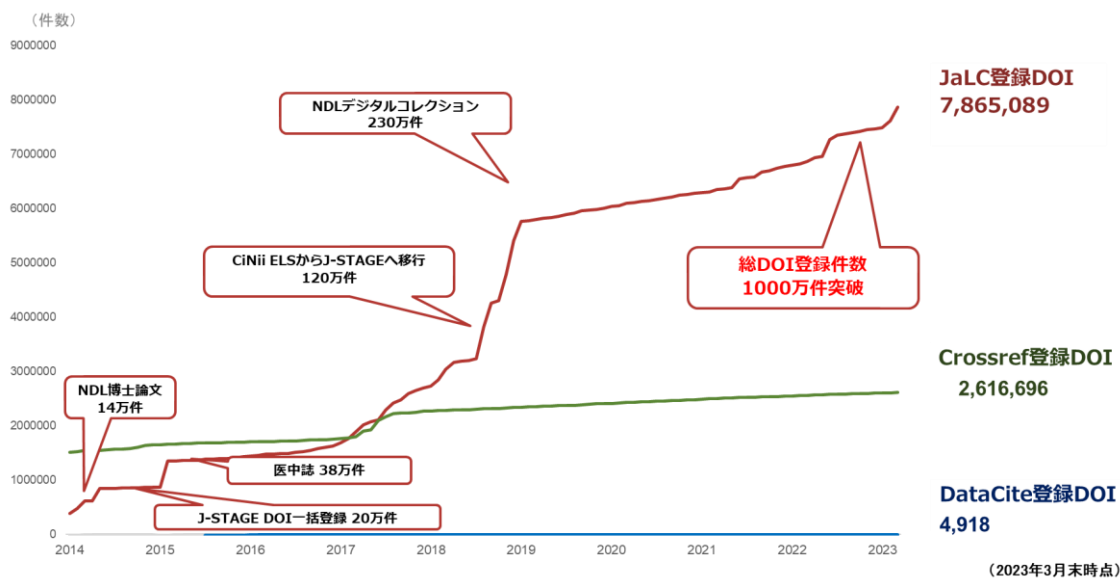


図 1. DOI 登録件数の推移（令和 5 年 3 月末時点）

(2) 入会対応業務

正会員としての入会希望の申し出を受けて、7 機関を対象に入会説明やデータ登録デモを行った。その結果、以下の 12 機関が新たに入会した(昨年度に入会説明会を受けている機関を含む)。

- 山岳医療救助機構
- 産業技術総合研究所
- 日本医学会
- 日本精神神経学会
- 人間文化研究機構
- 東京大学史料編纂所
- レタープレス株式会社
- 自然科学研究機構核融合科学研究所
- 国土地理院
- 日本測地学会
- 創新社

4. その他、JaLC の運営に関する一切の事務¹⁾

(1) ジャパンリンクセンター新規ストラテジーの策定

令和 4 年度で終了するジャパンリンクセンターストラテジーについて、評価シート・アンケートを用いた現行ストラテジーの会員へのヒアリングを行った。その上で、運営

1) ジャパンリンクセンター運営規則第2条2項5号

委員および有識者による打ち合わせ・審議を行い、新規ストラテジーを策定した。

(2) DataCite 有料化における対応

令和 5 年度より、DataCite におけるジャパンリンクセンターの会員区分が変更となり、会員ごとに年会費が加算されることを受け、会員への請求方法の取り決め、JaLC 経由にて DataCite へ DOI 登録を行っている会員に対する継続の可否の伺い等を行った。またジャパンリンクセンター参加規約の改訂を行い、Crossref や DataCite の利用における条項を追加した。

(3) 国際機関との連携

昨年度に引き続き、Open Citations、unpaywall、CHORUS などと海外機関との連携の協議を行った。Turnitin との類似性チェックサービスについては近々リリース予定。

(4) DOI 登録マニュアルの改訂

研究データ登録マニュアルの改訂について、会員からのご助言を元に XML フォーマットガイドを追加した。定義ファイル(XSD ファイル)についても合わせて公開予定。

(5) 普及・広報

- ① 表 2 のとおり DOI の普及・広報を行った。なお、今年度開催・参加したイベントはすべてオンラインでの開催であった。

表 2.令和 4 年度の普及・広報

1	データ活用に関して議論する、国際科学会議データ委員会 (CODATA) および世界データシステム (WDS)、リサーチデータアライアンス (RDA) による IDW(International Data Week)が令和 4 年度 6 月 20 日から 24 日にかけて開催され、事務局より参加した。
2	DataCite APAC Community JaLC を含むアジア RA、ORCID、豪州 ARDC と DataCite による APAC のコミュニティー DataCite APAC Expert Group Q3 Meeting が令和 4 年 9 月 27 日に開催され、事務局より出席した。
3	RDUF 公開シンポジウム (令和 4 年 11 月 11 日) RDUF 会員や小委員会、部会による活動、成果物等の紹介や、研究データの利活用に係る招待講演等を行った。
4	ジャパンリンクセンター「対話・共創の場」(令和 4 年 12 月 15 日) 「DOI ・メタデータ登録運用と活用」をテーマに話題提供講演や意見交換を行った。

5	<p>NISO Plus 2023 (令和 5 年 2 月 15 日)</p> <p>NISO (米国情報標準化機構) による学術情報コミュニティの会議 NISO Plus2023 における、メタデータの流通での多言語利用に関して議論する「Multilanguage metadata」セッションにて、武田委員長が発表(Multilingual issues of scholarly publishing in Japan)を行った。</p>
---	--

② JaLC NEWS の配信

JaLC 正会員に向けて、令和 4 年 4 月～令和 5 年 3 月の第三水曜日に JaLC NEWS (メールマガジン) を配信し、サービスのリリースやイベント情報等について情報提供を行った。

— 以 上 —